

科学交流セミナー「ロボット時代の創造」

ロボット・人工知能が活躍する時代、我々はどう生きるのか？
ロボットクリエイター高橋智隆さんに語ってもらいます！

2018年12月23日(日)14:00-16:00

京都大学北部キャンパス 基礎物理学研究所湯川記念館パナソニック国際交流ホール

1975年生まれ。2003年京都大学工学部卒業と同時に「ロボ・ガレージ」を創業し、京大内入居ベンチャー第一号となる。代表作にロボット電話「ロボホン」、ロボット宇宙飛行士「キロボ」、デアゴスティーニ「週刊ロビ」、グランドキャニオン登頂「エボルタ」など。ロボカップ世界大会5年連続優勝。米 TIME 誌「2004年の発明」、ポピュラーサイエンス誌「未来を変える33人」に選定。開発したロボットによる4つのギネス世界記録を獲得。

(株)ロボ・ガレージ代表取締役、東京大学先端研特任准教授、大阪電気通信大学客員教授、グローブライド(株)社外取締役、ヒューマンアカデミーロボット教室顧問。



当日のスケジュール

14:00 開会の挨拶 日本物理学会京都支部長 佐々真一(京都大学理学部物理教室教授)

14:05-15:05 講演 高橋智隆氏「ロボット時代の創造」

15:05-16:00 会場参加型討論「これからのプログラミング — 学校教育に寄せる思い」

ナビゲーター 水野義之(京都女子大学現代社会学部教授)

人工知能(AI)、ロボティクス、ブロックチェーンといった技術の革新によって、社会全体、そして教育の在り方が変わり始めました。単に教科書を暗記したり、統計的な答えを出すだけなら、人間よりもロボットのほうが優れています。更には自ら学習するAIやロボットが登場しました。今まさに人間らしく、自ら考え、創造的に生きることが求められています。

ちょうど日本でも、2020年より小学校でのプログラミング教育が必修化されます。しかし、適切なテーマがないと、味気ない授業になってしまいそうです。子供たちの好奇心をくすぐるワクワクする課題を通じて、子供たちの創造性を伸ばせないかと皆が願っていることでしょう。

そこで、ロボットを教材にすることで、楽しみながら機械の仕組みとプログラミングの役割を学び、科学全般への好奇心や技術の芽を伸ばしていこうという取り組みが広がっています。

今回、科学教育の立場からロボットを考え、更には未来のAI社会における我々の暮らしについて、皆様と活発な意見交換をしたいと思えます。